



か い よ う と う

海洋島

通巻 69 号

東京都小笠原水産センター

2014 年 3 月 20 日発行

〒100-2101 東京都小笠原村父島字清瀬

☎ 04998-2-2545

Fax. 04998-2-2546

サンゴ白化から 10 年

小笠原の島々の周りでは造礁サンゴが発達し、そこに棲む多くの魚やエビといった生き物とともに美しい景観を形成しています。しかし、2003 年 9 月、母島でこのサンゴ礁が大規模に白化しているのが確認されました（写真 1）。小笠原水産センターでは、被害の大きかった御幸浜を中心に、その後の回復状況を確認するため、毎年調査を行ってきました。

調査は、御幸浜の水深 10m と 3m の地点で、50cm×20m のライン上のサンゴの種類とサンゴの割合（被度）を調べるベルトトランセクト法で行いました。

水深 10m の地点は、当初 80% のサンゴが白化していました。しかし、回復が早く、翌年には白化はほとんど観察されませんでした。また、被度も白化の影響で 41.9%（※）から 33.5% に減少しましたが、その後は順調に回復し、4 年後には 42.4% と白化前を上回るまで回復しました。

水深 3m の地点は、当初 50% のサンゴが白化していました。白化による死亡が多かったため、翌年の被度は 40.3%（※）から 17.4% にまで減少していました。しかし、その後は 10m と同様に順調に回復していき、4 年後には 26.1%、10 年後には 30.2% まで回復しました（図 1）。また、この 10 年間で新たな白化は確認されていません。

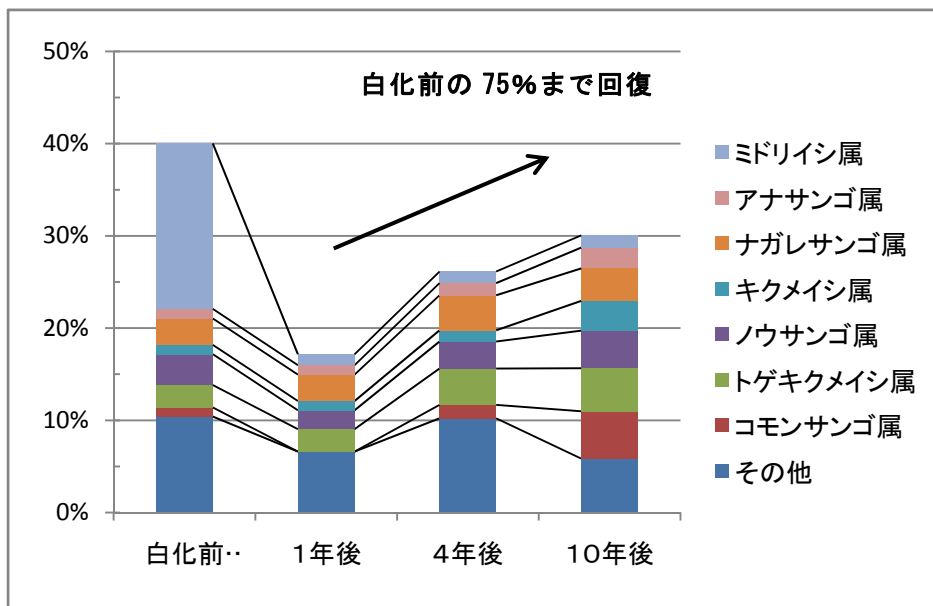


図 1. 御幸浜 3m 地点の被度および種組成

※ 2003 年 10 月は死亡したサンゴも被度に含め、便宜的に白化前の被度と仮定しています。



写真 1. 白化時（上）と、回復した様子（下）

水深 3m 地点での被度をサンゴの種類別にみると、2014 年現在は主にナガレサンゴ属、キクメイシ属、ノウサンゴ属、トゲキクメイシ属、コモンサンゴ属で構成されていることがわかります（図 1）。白化から 10 年が経過し、このように多様なサンゴが生育できる安定した環境が維持されているようです。